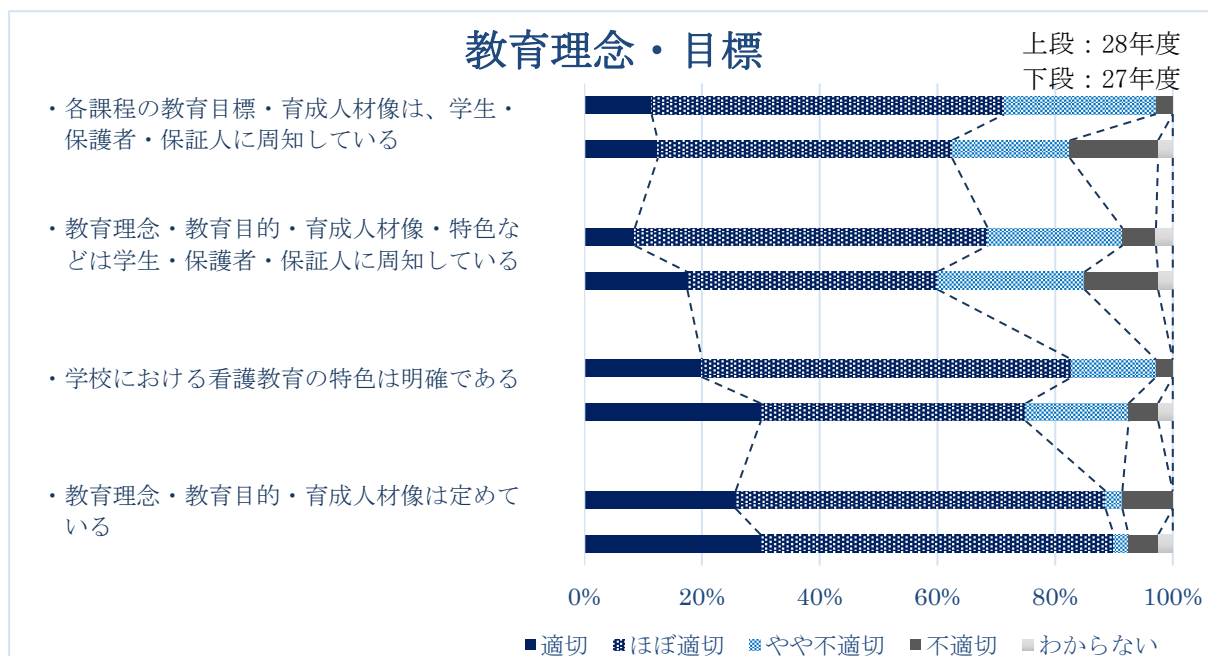


京都府医師会看護専門学校
平成28年度 自己点検・自己評価

I. 教育理念・教育目標・人材育成

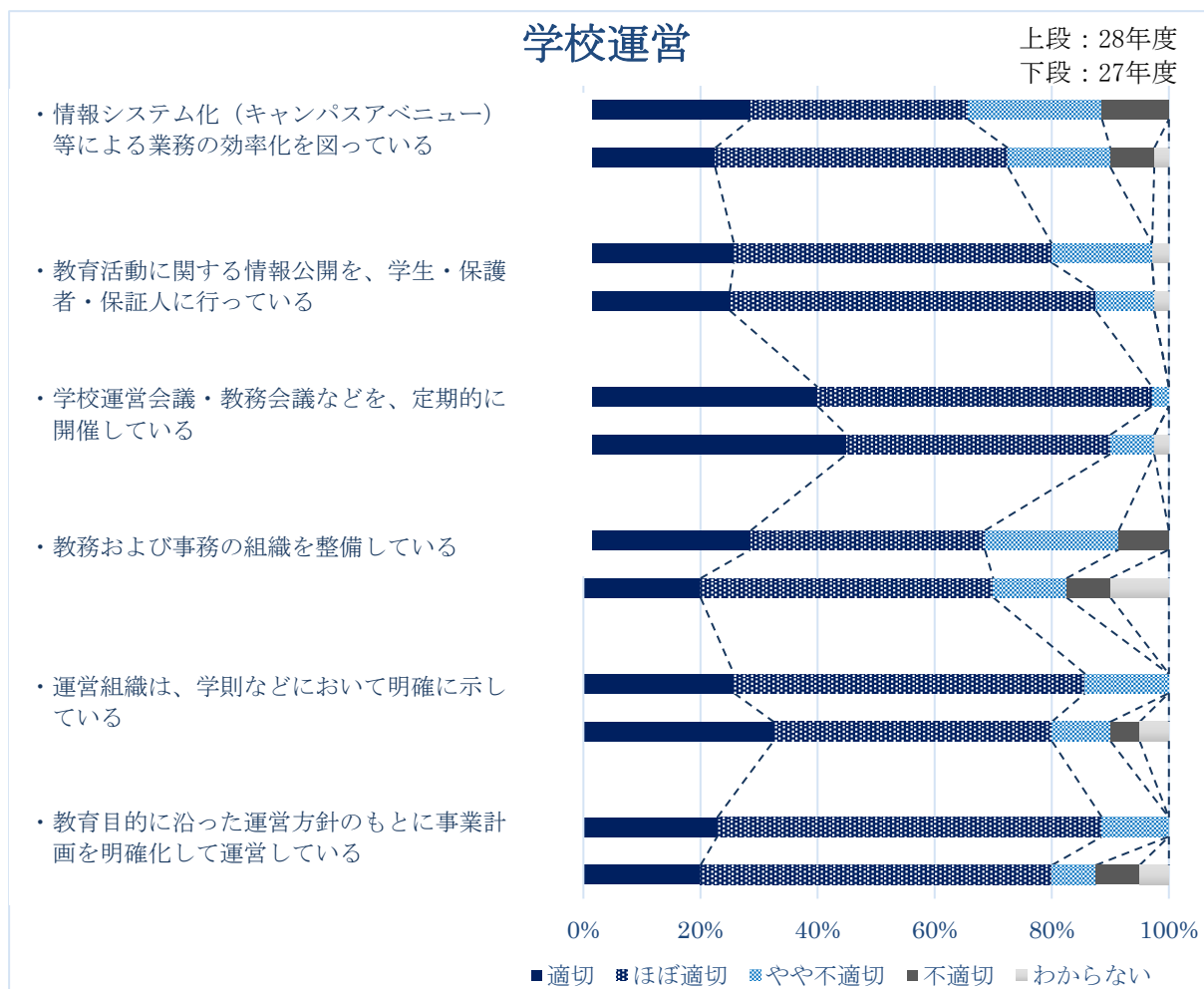
(1) 教育理念・目標



自己評価	外部評価
<p>教育理念・目標の周知については、全体に「適切」、「ほぼ適切」との回答合わせて70%以上で、「やや不適切」「不適切」が約30%であるが、課程によってばらつきがある。学生には入学後も学校ガイダンスに基づき指導する機会があり、その他HPや入学時やオープンキャンパス、保証人会など、周知してもらう機会もあるが、保護者や保証人には参加者が限られている。今後も保護者・保証人に向けて意図的に発信していく機会を増やしていくことや方法の検討が必要である。また、新人教員をはじめ、教員間の共通理解をさらに深めていくことも必要と考えられる。</p> <p>看護教育の特色については昨年と同様80%以上と高評価であるが、これを十分とせず、一層の取り組みの充実を図っていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 看護大学や4年生が推奨される中で、看護専門学校としてのメリットや特色や違いなどをプラスにアピールできることも大事だと思います。 保証人会は学生の日頃の様子がわかり、学校を知る良い機会だと思います。活用されると良いと思います。

II 組織運営

(1) 学校運営

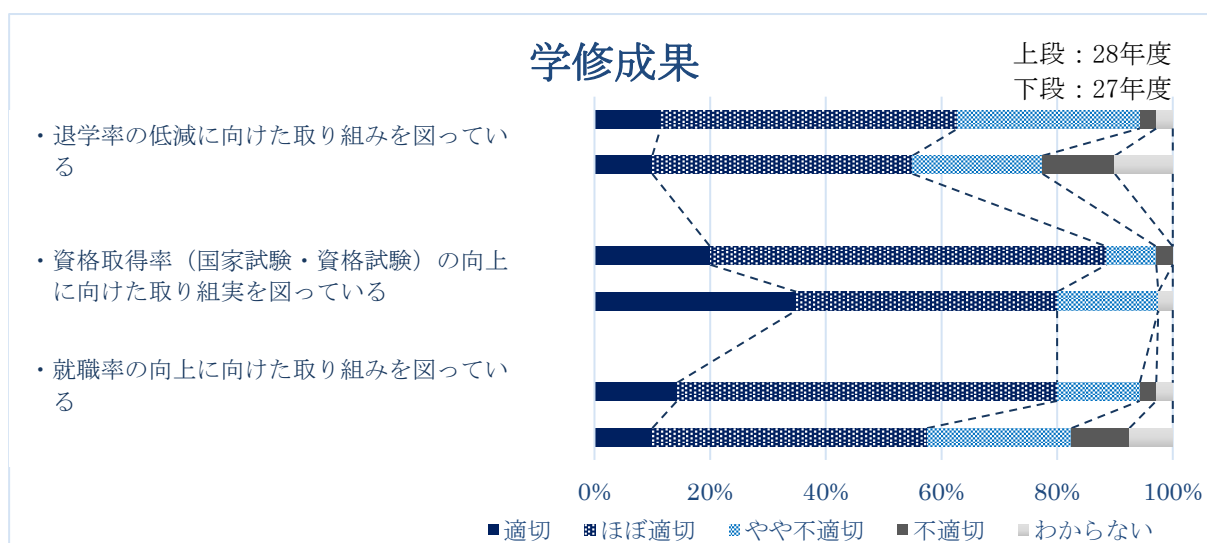


自己評価	外部評価
<p>『情報システム化（キャンパスアベニュー）などによる業務の効率化を図っている』『教務および事務の組織整備』について、65%の職員が「適切」「ほぼ適切」と回答している。キャンパスアベニューは情報管理を確実に合理的に行えるが、使用方法が複雑であったり、個人の権限が限られるため適時に変更ができないなど難点も多い。また、事務との業務整理も改善しているが教員に周知するまでには至っていないこともあり、今後、朝礼や合同会議を通じ教員全員に業務整理の徹底を続けることで改善できると考えられる。</p> <p>各会議の開催などについては 97%以上の教員が「適切」「ほぼ適切」と回答しているため学校運営の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教務及び事務の組織整備をしている「やや不適切」の改善について検討はいかがでしょうか。 ・会議の開催については、適切に行われている。

根幹となる組織については良好と感じていると推察できる。

『運営組織の周知や事業計画の明確化』については約10%に「やや不適切」と回答していることから、学校運営の基盤である組織運営の理解が十分であるとは言えない。学校運営の決定機関から定期的な情報発信をすることにより教員全体が、主体的に学校運営に関心をもち参画することで改善することが今後の課題である。

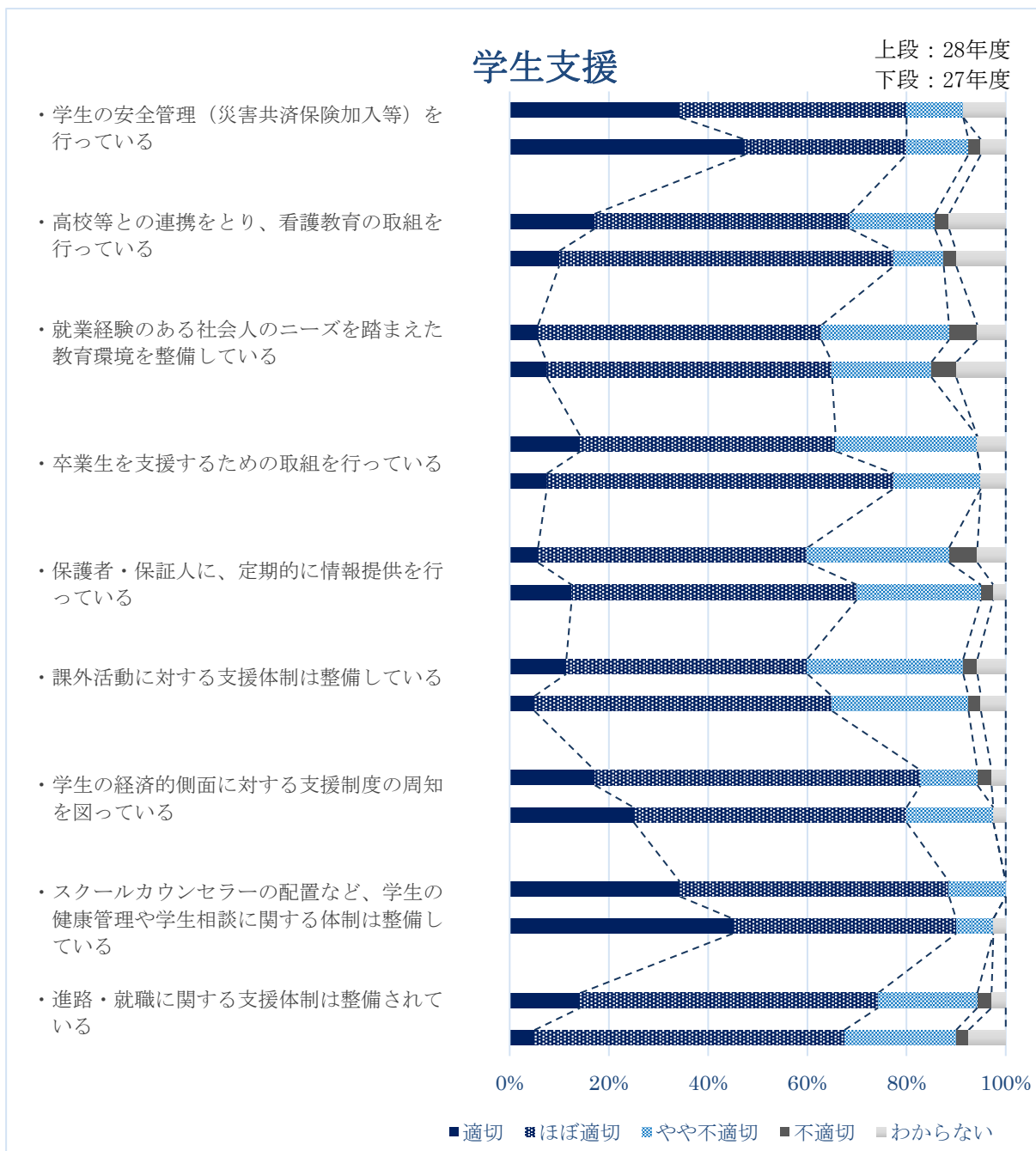
(2) 学修成果



自己評価	外部評価
<p>学校全体での大きな課題は、学習課題および精神的事由による退学者や原級留置学生への対応であった。教員対応やスクールカウンセラーの介入は前年度同様になるべく早期に対応を心掛けており、教員間の情報交換や共通認識への意識も高い状況にある。しかし、年々増加傾向にある学生対応への教員の疲労、疲弊も比例して高くなってきている。解決策としては、継続した基礎学力向上への学習支援を日々行うことに加え、臨地実習や学校生活で社会人としての思考や行動力の向上に向けての学生サポートを強化することである。</p> <p>資格取得までの道のりは各学科で試験対策、外部模擬試験の実施、外部講師への講義依頼など例年通り実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・退学率低減について、入学前の聞取りやアンケート調査などで対応できないでしょうか。ゼロは無理でも、減少は目指せるのではないかと思います。 ・全体に、「適切」「ほぼ適切」の数値が高くないと思われる。退学率の低減に向けた取組みをお願いしたい。 ・退学率の低減については、昨年度よりも若干改善は見られるが、入学当初の対策が大きな鍵を握っているのではないかと思います。

施している。特に、教員が学生の学習段階に応じた学習対策を工夫していることや臨地実習での体験から学習内容の選定をし、興味関心のある内容をきっかけに学習支援をするよう努力している。資格取得や就職においてもこれらの成果として、准看護学科では資格試験 100%の合格率、助産学科、看護学科では全国平均を上回る国家試験合格率であった。就職率も進学を除きほぼ 100%を誇っている。

(3) 学生支援



自己評価	外部評価
<p>『学生の健康管理や学生相談に関する体制』は昨年同様 90%が、また『学生の安全管理』『高校との連携』『卒業生支援』『学生の経済的側面に対する支援体制』の各項目についてはほぼ 80%が「適切」「ほぼ適切」との結果が得られている。これらは、スクールカウンセリングの利用も年々増加し、カウンセラーとの連携を図りながら、学生の精神的サポートが適時行われている結果である。また、毎年実施される健康診断の結果をもとに学生の健康面のサポートが行われていることと、感染症対策により看護者を目指すものとしての感染予防に対する指導が強化されている結果と言える。</p> <p>一方、『社会人のニーズを踏まえた教育環境』については、昨年同様、「適切」「ほぼ適切」が 60%台に留まっている。社会人入試で入学する学生が増加している中で、その社会経験を学校生活で生かす教育環境が少ないのであろう。就業経験のある学生のニーズをつかみ、またその経験を活かしながら専門職業人としての自覚と責任を高めていきたい。</p> <p>『保護者・保証人への情報提供』については昨年とほぼ変化なく「適切」「ほぼ適切」が 70%にとどまっているが、学科差が大きい。学力面・精神面・経済面など多方面で多くのサポートを必要とする学生が多い中、保護者・保証人の協力のもと、一人ひとりの学生を資格取得までサポートする体制が望まれる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、保証人への情報提供について強化できないでしょうか。こまめな情報提供で学校側の誠意や早期の支援介入へ繋がるのではないかと思います。 ・スクールカウンセラーの設置はとも良いと思う。学生のメンタルヘルスが必要だと思われます。 ・入学当初のガイダンスやオリエンテーションでしっかり説明しないと、つまづく原因にもなる。最初の対応が大切。

カムバックスクール

平成 28 年 8 月 5 日（水）13 時 30 分～15 時

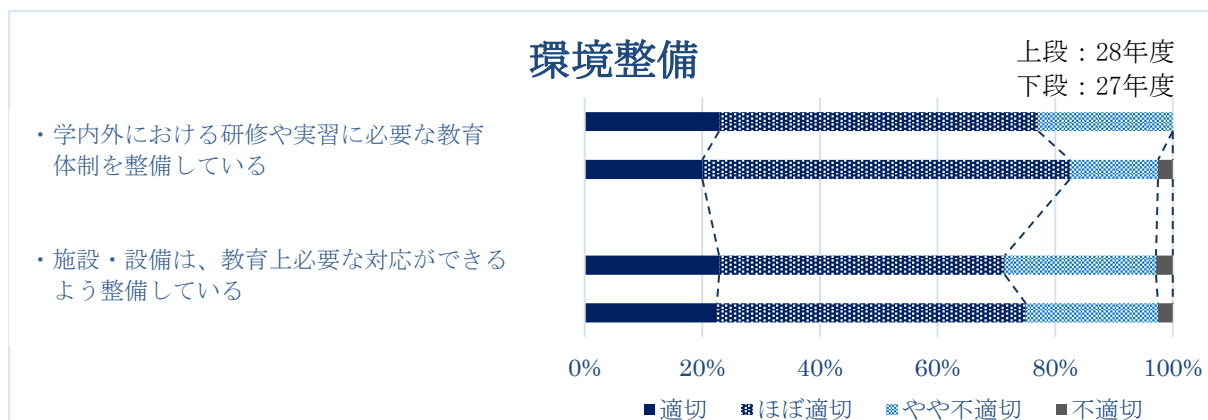
講演テーマ：「認定看護師への道－訪問看護について－」

講師：徳山晴子 先生 京都岡本記念病院訪問看護ステーションひまわり

訪問看護認定看護師

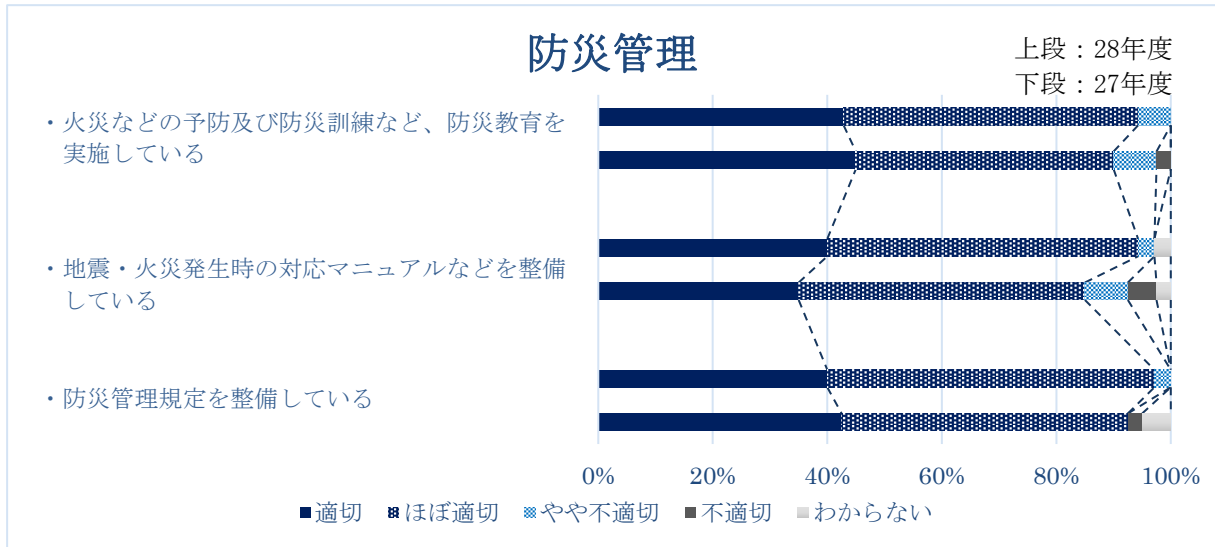
(4) 教育環境

ア 環境設備



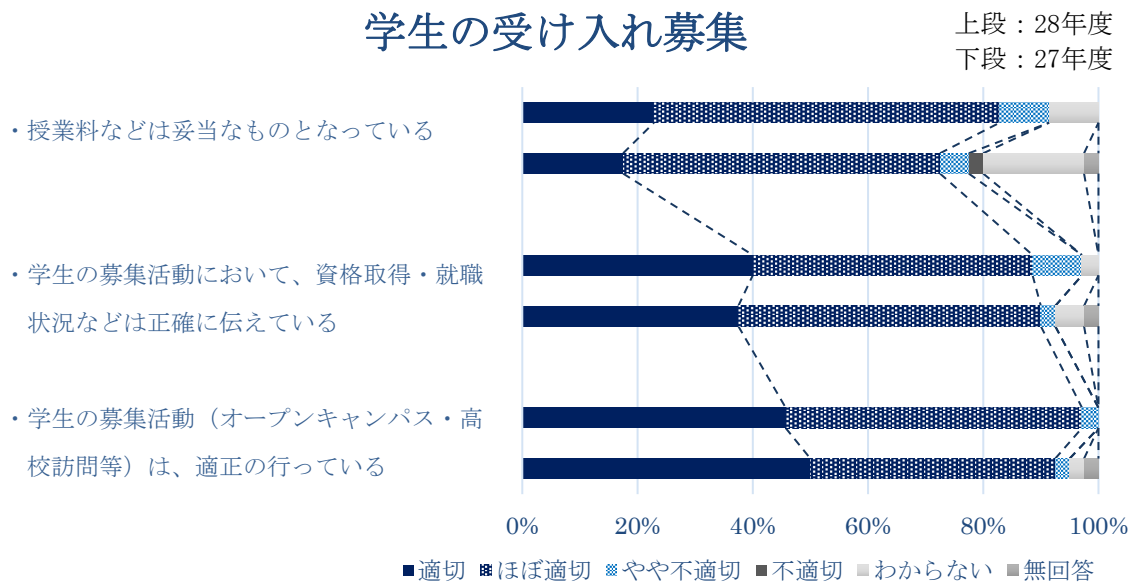
自己評価	外部評価
<p>『学内外における研修や実習に必要な教育体制の整備』については、本校での新人専任教員指導や、公開授業などを通じ、教員の研修に取り組んでいるため約77%が「適切」であると回答している。しかし、約23%が「やや不適切」「不適切」とあり、業務多忙により、負担感を感じることもあるのではないと思われる。また、自己研鑽を高め、教員個々の資質能力の向上を目的とした校内研修会も実施しており、今後は各教員が積極的に取り組めるよう、時期や回数を考えていく必要がある。</p> <p>『施設、設備整備』については、約72%が「適切」「ほぼ適切」と回答しており、学内演習の教材を定期的に購入するなど、学習環境は概ね整備されていると考える。</p> <p>授業に当たっては、学生の学習環境として、学生数に応じた教室であるか常に観察し、空調などの工夫もしていく必要がある。また、廊下やエントランス、階段などでも事故が起こらないように照明の管理なども気をつけて行っていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室の閉室時間の延長(17時→18時)ありがとうございました。ただ、1冊の本が大きく重い物であれば、学校で自習する時間を増やしてあげたいものと思ひ更なる時間延長を希望します。 ・努力されており問題ないと思ひます。 ・学生の意見を取り入れてやられているのであれば良いと思ひます。

イ 防災管理



自己評価	外部評価
<p>90%前後で「適切」にされていると回答があった。定期的に訓練を行い、防災管理の実際を教員、学生とも今後も意識して行っていきたい。</p>	

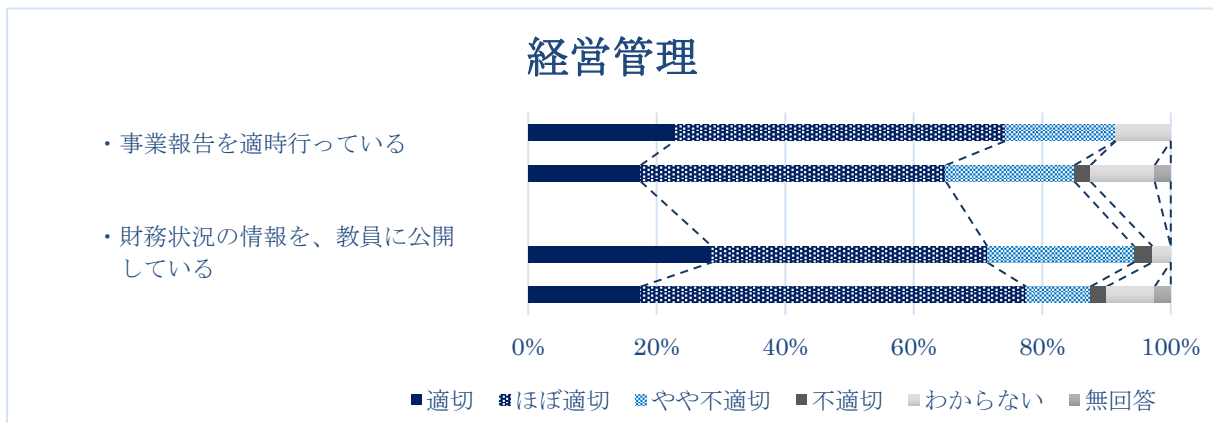
(5) 学生受け入れ募集



自己評価	外部評価
<p>授業料に関しては、83%が「適切」「ほぼ適切」と回答しており、ほぼ妥当であるとの認識と推察できる。学生の募集活動については、受験生にとって適切と考えられる時期にオープンキャンパスを、年4回実施している。また、教育顧問による高校訪問の結果の報告などから、全員の教員が「適切」「ほぼ適切」としている。また、資格取得・就職状況の伝達についても学校案内やホームページへの掲載とオープンキャンパスで説明していることで89%の教員が「適切」「ほぼ適切」としている。それに加え、本年度よりマイナビを広報媒体として活用し、学校情報やオープンキャンパスの情報を掲載することで、本校を知ってもらい、学生募集に繋げたい。また、准看護科、2年課程の学生が減少している現在、優秀な学生を確保するため、今後も継続して具体的な方法を検討していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・努力されており問題ないと思います。 ・オープンキャンパスはとても良いと学生から聞いています。病院によっては准看の就職ができない病院も増えています。進学に力を入れて頂きたい。

(6) 経営管理

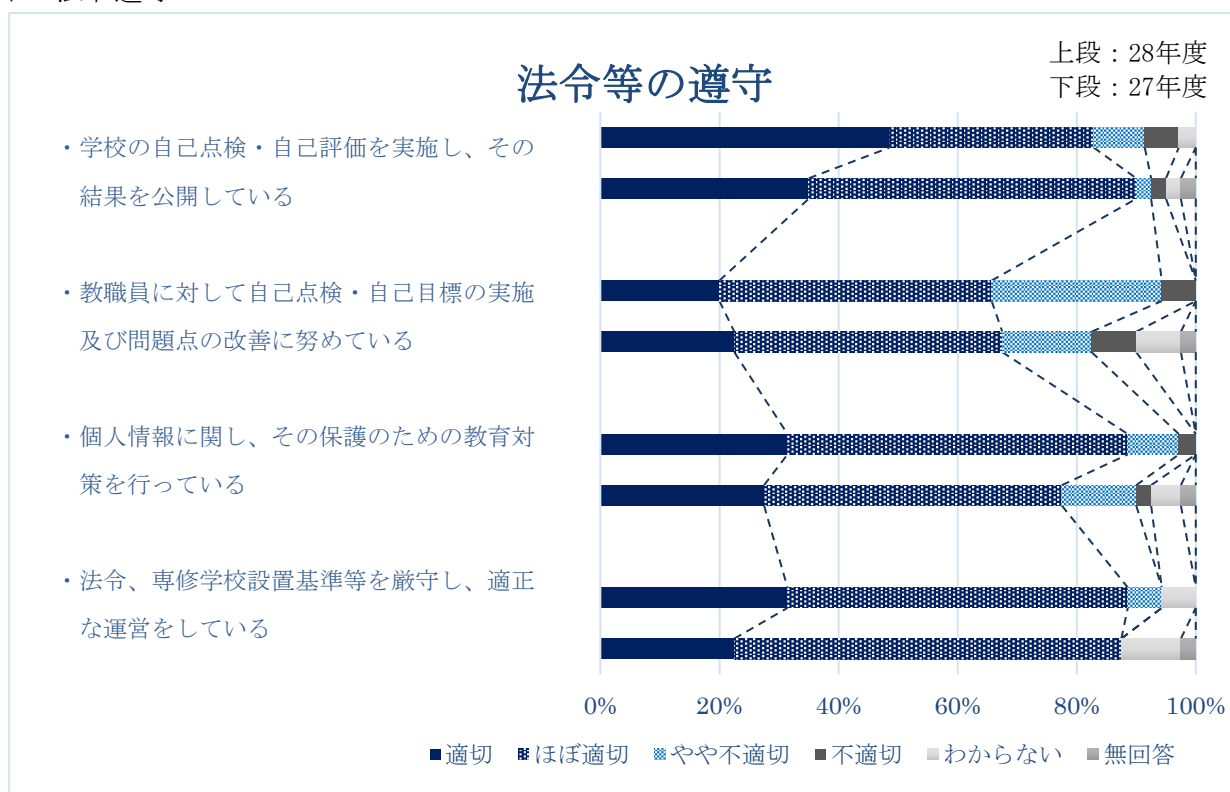
ア 財務



自己評価	外部評価
<p>事業報告については17%が「やや不適切」、9%が「わからない」としている。また、財務状況の報告について26%が「やや不適切」「不適切」としている。これらは合同会議で報告されているが、合同会議に出席できなかった教員がいることも一因と考えられるが、教員の経営や財務会計といった分野の興味・理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題ないと思います。

不足も要因であろう。今後は組織人として興味関心を持って学校経営管理に関しても理解が深められるよう、研修等にも取り組んでいく必要がある。

イ 法令遵守

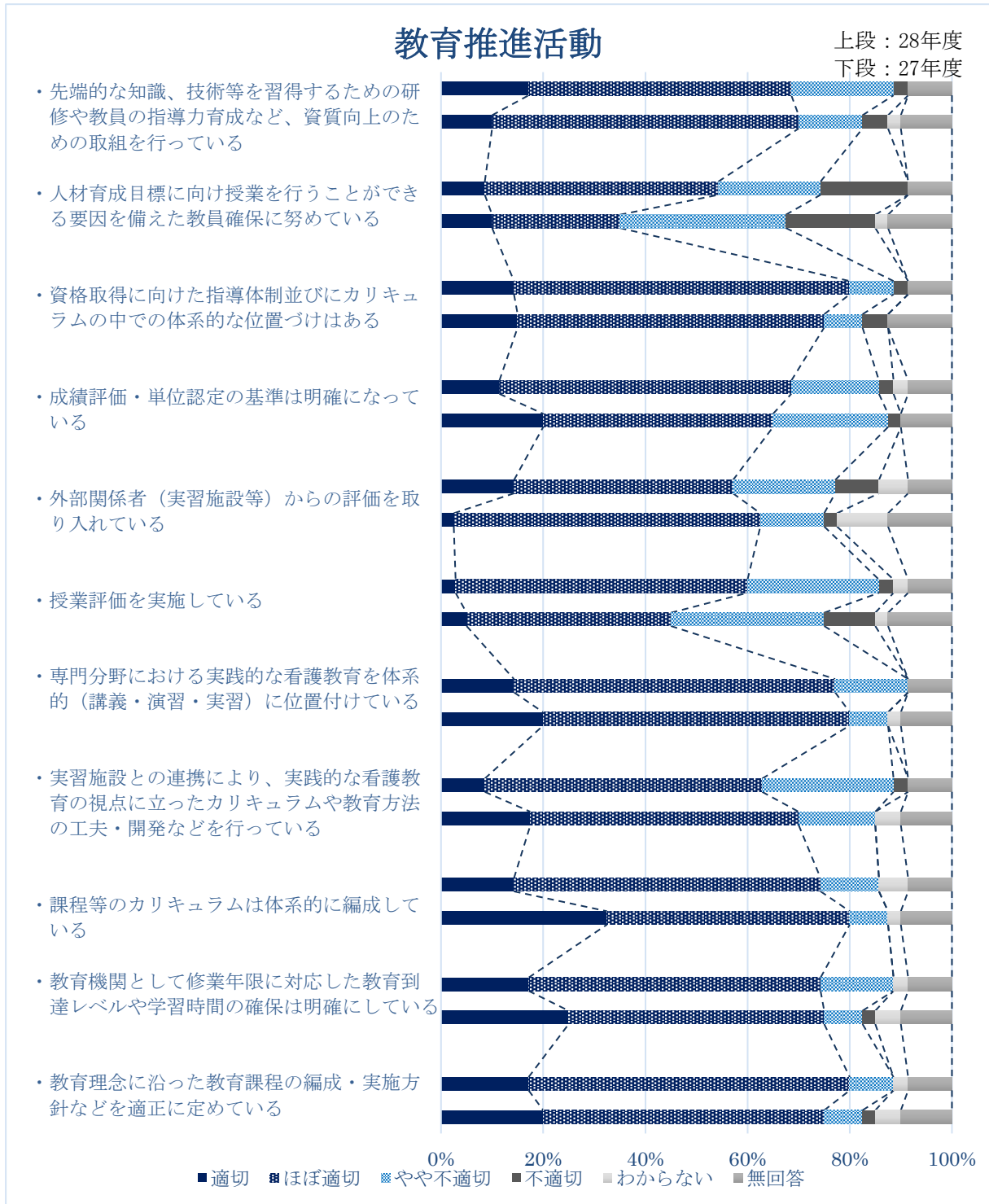


自己評価	外部評価
<p>自己点検・自己評価の実施および結果の公開は定着し、「適切」「ほぼ適切」が8割以上を占め、認識はできている。しかし28年度新入職の職員がいないにも関わらず「不適切」「わからない」という回答があり、継続して周知徹底を図る必要がある。また改善策が具体的でないため、その方法について具体的に検討し実施していく必要がある。</p> <p>個人情報に関しては、比較的意識も高く、今後も継続して学生の認識を確認し十分な指導をしていくことが必要である。</p>	

<p>28年度は、京都府より定期調査を受け大きな問題はなく法令の遵守についても高評価であるが、「わからない」との回答が10%あり、法令や設置基準等を理解し、関心もてるように説明や情報交換等を行う必要がある。</p>	
---	--

III. 教育活動

(1) 教育推進活動



自己評価	外部評価
各課程のカリキュラム編成や資格取得にむけた指導体制、成績評価・単位認定の基準は明確化については前年度と同様に、約70%～80%が「適切」「ほぼ適切」	・平成28年度評価について「不適切」が多いアンケート内容は、個々の不満が反映されており、この不満

となっている。新人研修をはじめ各課程での取り組みが効果的であったと考えられる。

教員の資質向上のための取り組みに関しては前年度と同様に本校の研修計画に基づいて行われている。また各教員が外部研修に参加し、合同会議での報告や伝達講習により研修内容の共有を図っていることに変わりはない。しかし「やや不適切」「不適切」「無回答」があることに関して、日々の業務の繁忙さや日程の調整も難しく時間を確保することが厳しい状況であることが伺われる。『人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員確保に努めている』に関して、回答が「適切」「不適切」がほぼ半数に分かれている。各教員の力量や、仕事量の違いがこの結果となっているとも考えられる。各教員の資質向上のみならず、納得し仕事のできる環境整備も必要であると考えられる。

評価に関しては、外部関係者からの評価や授業評価に関しては昨年よりも「適切」「ほぼ適切」が増えている傾向にはあるが、引き続きより効果的な授業、実習を行えるよう適切な時期に振り返り、自己研鑽していく必要がある。また実習施設との連携を図り臨床での評価を学内での教育方法の改善に繋げていけるよう工夫する必要があると考える。

は生徒が感じ思っている事と一致するのではないのでしょうか。人工知能ロボット(AI)が看護・介護職に参入されるのも未来の話ではない時代に、人と人の温かさを感じられる様な看護師であってほしいと切に願います。

・教員環境は教育の根幹となるので、引き続き意識して努めなければならぬと思います。これは臨床でも同様ですが、評価内容にある様に各々が納得できる仕事への働きかけとして、教員への承認が重要であると思います。

・教員の確保については、難しい問題ではあるが、引き続き努力をしていただきたい。

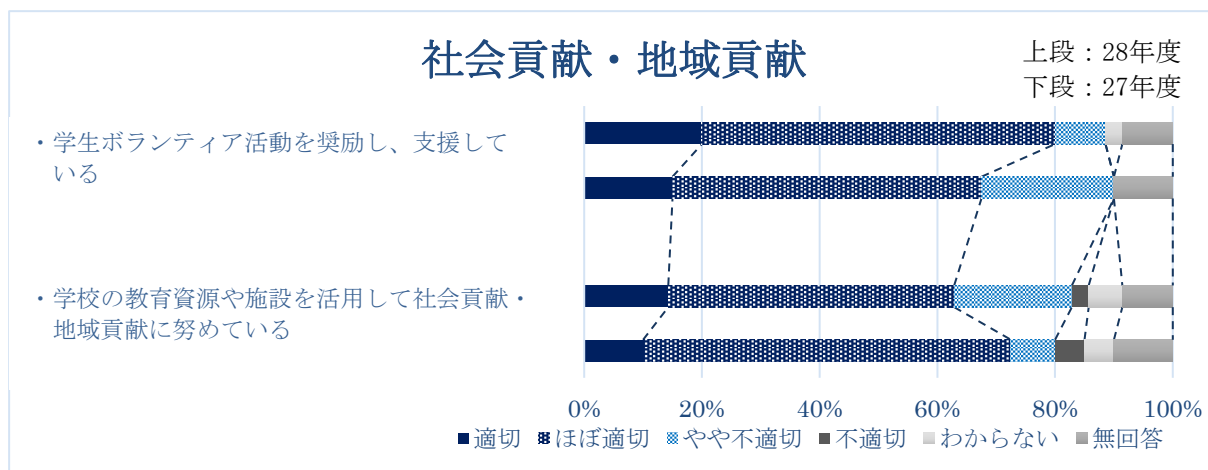
・授業評価についてもその有用性を理解し、積極的な活用を望む。

・看護学校は、一般の学校とは違うものと思っていたが、人間性やコミュニケーション能力が大切と知り、どこも同じだと実感した。

アクティブラーニングという言葉は消えたが、能動的な学習機会が増え、実状は理解度や参加について、差が出来てしまう。低学年では基礎・基本を身につけてほしい。方向性を定めても、ついていけない学生をどうするか、いかにやる気を起こさせるかが大切である。

・キーワードは【発表】である。全員が発表出来る機会が与えられるように。瞬発力を発揮出来るよう、質問されたらすぐに答えられるような対応が求められる。

IV. 社会貢献・地域貢献・国際交流



自己評価	外部評価
<p>本校では、学生のボランティア活動を奨励し、支援している。具体的には、日々の朝の立ち当番での挨拶運動、学校玄関前での花の整備、清掃活動などを通して地域の人々との交流に努めている。又、学校祭でのバザーや古本市は地域の方々にとって恒例行事の一つとなっている。その他、看護の日の行事に併せた活動、献血、夏祭り等のお手伝い、出張授業（性教育実践）など積極的に行っている。このような実績を踏まえ、教員評価では、ほぼ8割が「適切」「ほぼ適切」としているが、3年課程において「やや不適切」との回答がみられる。詳細を聞き取り、是正することがあるならヒントを得る必要がある。『学校の教育資源をつかっの社会・地域貢献』では、地元の高校の校外実習を計4回の受け入れ、学校主催の看護職対象の研修会3回を開催している。そのほか、京都府看護協会・京都府助産師会等の団体の役員、理事、講師等を引き受けそれぞれが任務を遂行している。しかし、教員評価では、約6割強が適切、ほぼ適切としている反面、助産学科以外の3課程においてやや不適切との回答がみられる。地域に向けての活動は、教員個人の活動で終始することなく、学校の活動として全教員に周知していく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続されることで問題ないと思います。 ・近隣への活動が継続されているので良いと思います。

洛東高校健康福祉コース 実習受け入れ
2年生→准看護科 2回

3年生→2年課程 2回
 洛東高校 性教育 助産学科 1回

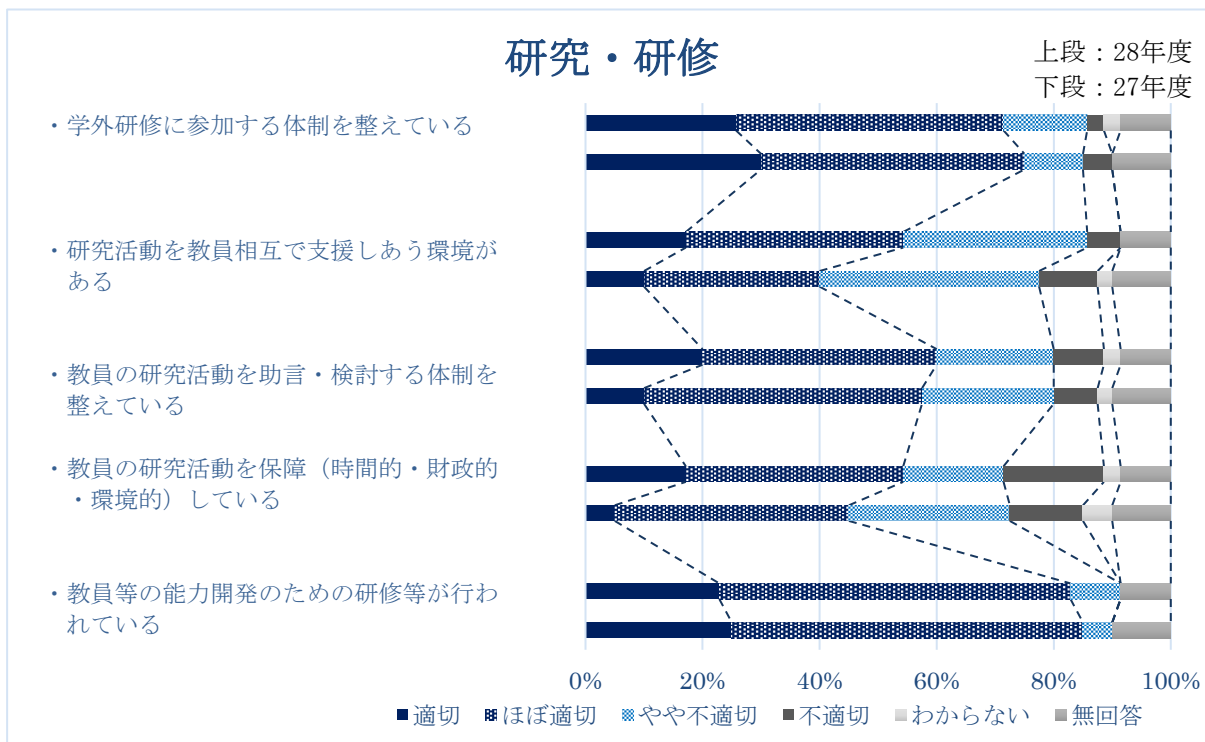
【講師派遣】

実習指導者（看護師）講習会	平成28年10月～12月	看護論	奥山幸子
		2年課程の教育制度	浏览美佐江
		母性看護学臨地実習	秋山寛子
		実習指導の実際演習	神農節子
看護協会短期研修	<准看護師>実践に活かせる看護過程と看護記録		浏览美佐江
京都武田病院	特別講演	職業倫理について	奥山幸子

【学会/職能関係】

京都母性衛生学会	副編集委員長	秋山寛子
京都府助産師会	教育委員	秋山寛子
京都府看護協会	推薦委員委員長	橋戸好美
京都府看護協会	准看護師制度特別委員会	奥山幸子
山科保健センター	運営協議会委員	奥山幸子
第14回関西看護学生看護研究大会	実行委員	奥山幸子

V. 研究・研修



自己評価	外部評価
<p>研究・研修は、2、3年前の評価では各項目8割近くのものが「適切」「ほぼ適切」としていた。しかし、昨年より肯定意見の割合が低くなり本年度はそれに比して概ね「適切」に転じているものの肯定評価は全体の6割前後に過ぎない結果であった。中でも、研究活動に関する項目の評価が低く、『研究活動を教員相互で支援しあう環境』『研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)』の2項目は特に評価が低かった。特定の教員に負担がかからないように研究活動できる時間的な保証が必須であると考えられる。研修に関しては概ね適切と思われた。なお、研究発表、研修参加の実績は別紙に示すとおりである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究活動への支援は、時間や環境だけでなく、精神的支援(実行への承認)でもう少し改善できるのではないかと思います。 ・全体に「適切」「ほぼ適切」が低い数値になっている。校外研修の機会を増やしていかれた方が良いのではないかと。 ・教員相互の支援について、日々の地道な意識付けにより全体の文化として定着させていただきたい。

【学校内】

- 第1回研修会 「看護職としての社会人基礎力の育て方～効果的な実習指導をめざして～」
講師：箕浦とき子先生
- 第2回研修会 「課題解決に向けて主体的に、協働的に取り組める学生をどう育てるか？」
講師：野津有司先生

新人教員研修 8月5日(金) 12名
 研究授業 28年10月～28年3月 3名
 公開授業 28年4月～29年3月 2名
 シンポジウム 12月26日(月) 7演題
 研究発表 3月24日(金) 9演題
 長期研修報告会 3月24日(木) 滋賀県専任教員養成講習会 2名

【学校外】

1. 学会発表

日本看護学校協議会学会(静岡)

「A校助産学科卒業生の就業状況—離職を考える要因」

橋戸好美・秋山寛子・増田よし美・守屋嘉奈子

日本看護技術学会第15回学術集会(群馬)

「看護学生の採血技術の習得を促す教育法—静脈採血モデルの可視化を試みて」

奥山幸子

日本精神科看護学学術集会専門Ⅱ(新潟)

「精神看護学実習における学生企画レクリエーションが対象に及ぼす影響と今後の課題」

橋本登喜子・殿川賢太郎

2. 学会・研修会等参加

滋賀県専任教員養成講習会 4月～12月（滋賀）2名

日本看護倫理学会第9年次大会（京都）1名

日本看護学校協議会学会（静岡）3名

日本看護学会学術集会：看護教育（滋賀）3名

日本看護技術学会第15回学術集会（群馬）1名

日本精神科看護学学術集会専門Ⅱ（新潟）2名

京都府立医科大学 講演会 1名

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻退官記念最終講義 1名

京都府立医科大学助産師会研修 1名

京都橘大学看護学部研修会 1名

京都府助産師会研修 2名

京都母性衛生学会学術集会 2名

京都府食育協議会 研修 2名

京都府看護協会 短期研修 27名

大阪府看護協会 フォローアップ研修 1名

京都府看護学校連絡協議会 2名

日本精神看護協会（京都）2名

e-NUS 看護セミナー（大阪）5名

e-NUS 看護セミナー（名古屋）1名

照林社 看護教員実力アップセミナー（大阪）1名

3. 論文・執筆等

岡田弘美監修：看護学生「成人看護：循環器」. メジカルフレンド社. Vol. 64 No4. 2016.

橋戸好美他：A 校助産学科卒業生の就業状況－離職を考える要因－. 日本看護学校協議会雑誌 47 巻;175-176. 2016

橋本登喜子：看護師のための認知行動療法入門講座に参加して. 日精看京都支部広報新聞. 2017年1月